

航空機器事業の生産能力を増強

～将来ビジネス拡大に向け、成長基盤を確立～

ナブテスコ株式会社（本社：東京都千代田区、社長：小谷和朗）は今後、需要拡大が見込まれる航空機器事業部門の生産能力を強化するため、岐阜工場（岐阜県不破郡垂井町）内に新たな生産設備を建設します。

航空機器事業部門は、岐阜工場において機体の飛行姿勢を制御するシステム『フライト・コントロール・アクチュエーション・システム（FCAS）』を中心に航空機向けの各種装備品を生産しています。現在開発中である「ボーイング 737 MAX」「777X」並びに「MRJ (Mitsubishi Regional Jet)」に搭載される製品の2017年以降の量産本格化へ向けて生産設備を新設し、2016年度に稼働開始予定です。民間航空機向け製品の売上高は、上記開発機体のアフターマーケット需要も含め2020年代初頭には倍増が見込まれ、当社の長期的成長に大きく貢献します。

その成長基盤の一つとして、一昨年、自社開発に成功したFCASの中核部品の一つであるEHSV*の量産対応のための専用工場を新設します。また、従来、油圧機器事業の生産を行う垂井工場内に有していた表面処理工程を岐阜工場内に移転・新設し、一貫生産体制を実現します。新工場の建設にあたっては、品質・生産性の向上を追求するとともに、先進環境技術を積極的に採用しCO₂排出量を50%以上削減するなど、環境性能の飛躍的向上を図ります。

航空機器事業部門は、将来ビジネスの拡大を見据え、上記2工場の新設を含めて今後100億円規模の投資を実行し、当社の強みである“ものづくり力”に更なる磨きをかけ、中長期的な成長を実現していきます。

*EHSV： Electro Hydraulic Servo valve（電気油圧サーボバルブ）

以上